

社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団
経営計画書

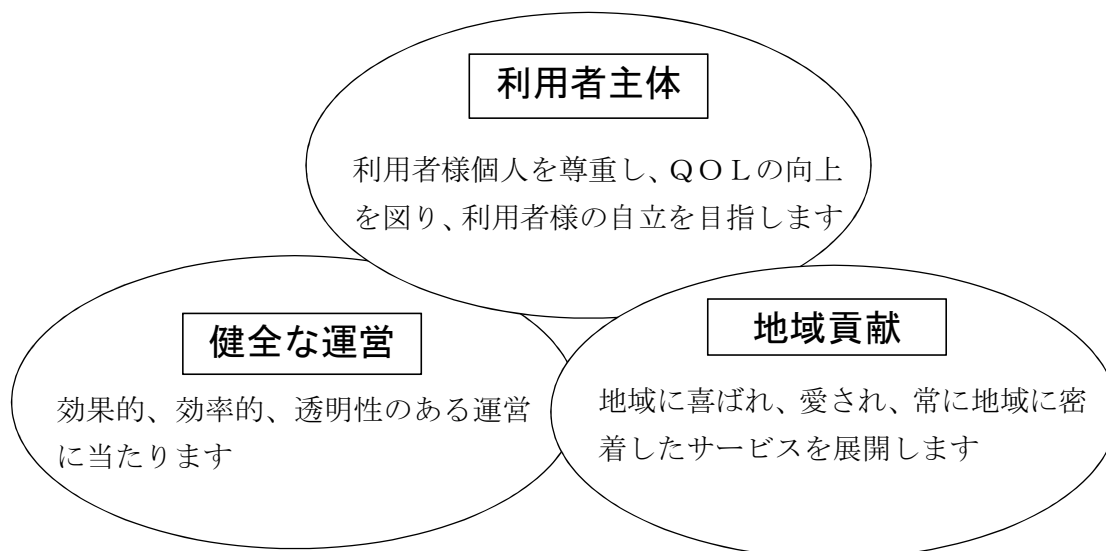
(平成 31 年度～平成 34 年度)

平成 31 年 3 月策定

第1 策定の趣旨

この経営計画書は、「静岡市外郭団体の活用及び連携に関する指針」(平成29年3月静岡市策定)及び「外郭団体方針書」(平成30年3月静岡市策定)を踏まえ、「総合的な静岡市のまちづくりのパートナー」として、社会福祉法人静岡市しみず社会福祉事業団(以下「事業団」という。)の役割を果たすための具体的な計画を定めるものです。

第2 基本理念(ビジョン)



事業団の定款に定める、多様な福祉サービスがその利用者様の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者様が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的としています。

【行動指針(団訓)】

誠意；私たちは、常に利用者の立場に立って誠意ある行動をします
熱意；私たちは、常に熱意をもって責任ある行動をします
創意；私たちは、常に問題意識を持って創意と工夫に努めます

第3 事業団の果たす役割

事業団は、静岡市と一体となって、長年培ってきたノウハウや高度の専門性を活かしたな事業や他の民間事業所が参入しにくい事業の他、重度重複障がい者の受入れを積極的に行う等、静岡市の公的責任を果たす機関として中核的な役割を担っています。

今後も、事業団が持つ専門性の研鑽に努め、その高度な専門性を活かして、障害者福祉における課題に対して、障がいのある方のニーズに対応した先駆的な事業に取り組んでまいります。

また、静岡市の政策パートナーとして着実にその責任を果たすため、静岡市及び関係機関等と連携し地域福祉に必要な事業を展開してまいります。

具体的な取り組みの考え方は、次のとおりです。

1 法人の組織体制及び財務規律の強化

組織体制強化のため、経営計画及び事業継続計画の策定、周知、実践を図る。

財務諸表等を公開し、透明性を確保する。

2 職員の専門性の向上

人材育成はOJTを基本に位置付けたうえで、法人研修計画に基づいた階層別研修及び積極的に外部の専門研修を受講する。

3 地域との連携及び貢献

日常生活又は社会生活上の支援を必要とする方に対し、地域との協働で福祉サービスを提供する。

4 福祉の中核的な役割の発揮

静岡市の業務を補完する役割を担うとともに、他の民間事業者が参入しにくい福祉サービス事業を積極的に担っていく。

第4 具体的な取り組み

1 障害福祉サービスの確実な提供

身体、知的、重度障がい者等、通所施設の持つ機能や施設間のネットワークを強化し、乳幼児から成人までの総合的な障害福祉サービスの提供等、地域生活の支援を確実に実施します。

また、様々な障害やニーズに対応できる高度な知識や専門性の維持、それらを継承するための人材の育成に努めてまいります。

2 公的責任を自覚した事業運営

事業団が持つ専門性と公的な支援によって、在宅の障がい者や重度重複障がい者とその保護者の方々が住み慣れた地域で円滑な社会生活が送れるよう進めてまいります。

また、地域における様々な福祉課題等に対して、関係機関等と連携・協働を図り、既存の制度では対応できない公益的な取組みを積極的に実施します。

3 障害福祉サービス提供事業者のパイオニアとしての地域福祉の牽引

障害児・者の支援を提供する民間事業者や団体に対して、事業団のもつ情報や人材育成等について効果的、安定的にサポートする等、地域における支援力の向上につなげていきます。

また、地域から愛され親しまれる事業団として、市民との交流を図る各種事業を展開します。

4 経営の効率化

平成24年1月に「経営計画検討委員会」を立ち上げ、経営目標、事業計画、収支計画等、制度面や経営面の観点から調査研究し、平成25年4月に今後5年間の経営計画書を定め、職員配置や人件費、事務事業の見直し等により経費の節減に努めてきましたが、今後も、経営の効率化を図りつつ、経費の節減への様々な取り組み、自主財源の確保に努めてまいります。

5 建物及び設備の老朽化に伴う建替え等

本館棟は築36年が経過し、建物及び設備の老朽化が進んでいます。また、その他の施設も同様であることから、利用者の安全確保をするために、修繕及び整備が早急に必要な箇所については、市と協議のうえ順次対応するとともに、建替えに要する建設資金の積立金の確保等、今後、

中・長期計画書(仮称)を作成し、静岡市と協議していきます。

6 新たな事業への取組み

障害児の療育相談の件数の増加や生活介護事業所の定員超過、単身での生活を余儀なくされている障がい者が増加している状況を踏まえて、相談支援事業の充実や新たな生活介護事業所の増設、社会生活環境の整備等、今後、新たな事業の取組みや施設整備を盛り込み、静岡市と協議していきます。

第5 事業面における現状・課題・取組

1 多分野に渡る障害福祉サービスの確実な実施

(1) 生活介護事業の実施

ア なぎさホーム(定員 20 名・重度肢体 重度重複)

現状・展望

- ・重度障害者が9割強を占めている。
- ・保護者の介護負担軽減を目的としたライフサポート事業(日帰りショート)の実施。

○障害支援区分(受給者証)内訳(H29年度末実績)

区分	4	5	6	計	平均
人数	1人	1人	14人	16人	5.8

課題

- ・医療的ケアを必要とする人への看護師の適切な配置。
- ・活動室の拡張及び施設整備。

今後の取組

- ・利用者ニーズに沿った支援体制の充実を図ります。
- ・活動室の拡張等、施設整備に向けて静岡市と協議します。

イ ひびきワーク(定員 20 名・身体)

現状・展望

- ・重度障害者が半数を占めている。

○障害支援区分(受給者証)内訳(H29年度末実績)

区分	3	4	5	6	計	平均
人数	5人	4人	8人	1人	18人	4.3

課題

- ・外出活動時の重度障害者(職員5人に対し、車椅子利用者8人)の対応に苦慮。

今後の取組

- ・定員確保のため、支援学校及び相談支援事業所との連携や活動内容の見直しを図り、重度障害者の受入れの対応や障害福祉サービスの向上に努めてまいります。

ウ うなばら学園(定員 60 名・重度知的)

現状・展望

- ・ 4 班（15 人の利用者に対して 4 人の支援員）体制で活動。
4 班の主な内訳（1 班；比較的ゆっくり活動、2 班；個性的な利用者が多い、3 班；こだわりが強くパターンで行動する傾向がある、4 班；比較的落ち着いている利用者が多い）
- ・ 重度知的障害者（発達障害者等）の受け入れによる個別対応利用者（構造化等での対応）の増。
※構造化とは；自閉症の方々は様々な刺激に過剰に反応してしまうことがあり、刺激をある程度整理し、利用者が分かりやすく活動できるようにすること。例えば、パーティションで空間を仕切り他からの刺激を減らす、1 日のスケジュールを作成し流れを提示する、など。

○障害支援区分(受給者証)内訳(H29 年度末実績)

区分	4	5	6	計	平均
人数	13 人	27 人	18 人	58 人	5.1

課題

- ・ 活動室の増設を行い 5 班体制とし、発達障害の方や視覚支援の必要な方などの障害特性に基づいた班編成の見直し。

今後の取組

- ・ 障害特性に基づいた利用者支援に対応するため、施設改修による活動室・静養室の増設等、静岡市と協議します。

エ うしおワーク(知的)

※多機能型事業所(定員 30 名・生活介護 ・定員 20 名・就労継続支援 B 型) 共通

現状・展望

- ・ 利用者の高齢化に伴う A D L 及び身体能力の低下。

○年齢調べ

年度	～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計	平均	最高齢
H29	4 人	13 人	25 人	5 人	7 人	54 人	45.8 歳	67 歳
H20	6 人	24 人	15 人	6 人	0 人	51 人	35.2 歳	57 歳

○障害支援区分(受給者証)内訳(H29 年度末実績)

	区分	無	3	4	5	6	計	平均
生活介護	人数	0 人	4 人	21 人	8 人	2 人	35 人	4.2
就労 B 型	人数	10 人	2 人	6 人	1 人	0 人	19 人	—

課題

- ・ 障害特性（知的障害、自閉症によるこだわり、てんかん発作等）に応じた活動環境の改善。
- ・ 家族の負担軽減のための新たな事業を検討していく。

今後の取組

- ・現在の就労継続支援B型事業所を就労を目的とした生活介護事業所へ統合化する等、利用者のニーズに応じた事業内容の再編について検討します。

(2) 相談支援事業の実施

ア 障害者相談支援センターわだつみ(知的等)

現状・展望

- ・相談員の支援件数及びサービス等利用計画作成希望者の増。
- ・利用計画作成や訪問等、業務量が多い。

○相談支援事業の実績

(1) 相談支援件数

年度	H27	H28	H29
件数	2,450 件	2,618 件	2,319 件

(2) サービス等利用計画作成の状況

年度	H27	H28	H29
契約者数	232 人	241 人	245 人
利用計画	247 件	232 件	255 件
モニタリング	254 件	259 件	262 件
本書 モニタリング	10 件	7 件	6 件
合計	511 件	498 件	523 件

課題

- ・相談支援において、対象者の障害特性により支援が長期に渡るため新規相談者の受け入れが難しい。

今後の取組

- ・相談支援業務の見直し及び他機関との連携を強化します。
- ・事務、訪問等の業務内容を精査しマニュアル化を図り、相談支援件数を増やしていきます。

(3)その他

(a) 施設利用者の満足度調査(満足度)

施設	H27	H28	H29
みなとふれあいセンター	92.8%	89.2%	88.5%
ひびきワーク	78.3%	80.2%	79.3%
うみのこセンター	89.2%	89.5%	89.0%
うしおワーク	79.5%	78.8%	77.0%
うなばら学園	79.8%	79.0%	79.2%
なぎさホーム	93.0%	90.0%	84.4%

- ・要望等については、速やかに対応又は検討のうえ必要であるものについては対応している。

そのうえで、年度当初の保護者会総会時、及び文書での回答を実施している。

(b) 虐待防止委員会及び虐待防止全体研修会の実施状況

年度	H27	H28	H29
委員会	4回・32人	4回・32人	4回・32人
全体研修会	1回・68人	1回・68人	1回・68人
研修会内容	講師による講演会	講師による講演会	グループワーク

2 一般の民間事業所では対応が困難な事業や役割の実施

(1) 法定外サービスの実施

ア うみのこセンター(母子療育訓練センター)

現状・展望

- ・定員を定めていないため希望者は全員受け入れている。
- ・保健センターや児の所属園からの紹介により利用児が増加傾向にある。

年度	H27	H28	H29
実人員	152人	171人	185人

課題

- ・利用児に対しての職員数及び活動室の不足により受入の対応が困難。

今後の取組

- ・関係機関（保健センターや保育園）との連携を図り、子どもや保護者のニーズに合わせた職員の増員等、静岡市と協議しつつ、受け入れ体制を整えて充実した支援を行います。

イ みなとふれあいセンター（身体障害者福祉センターB型）

現状・展望

- ・利用者の高齢化及び新規利用者の減少。

○利用者の年齢構成(H29年度末実績)

年齢	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
人数	3人	3人	9人	28人	19人	20人	2人	84人

○利用者の契約数、解除数

年度	H27	H28	H29
新規契約者	8人	6人	6人
利用解約者	11人	6人	7人
増減	△3人	0人	△1人

- ・教室等の利用者に対する送迎サービスの実施。

課題

- ・ニーズに合った事業内容の展開。
- ・事業内容による開所時間の対応。

今後の取組

- ・平日夜間や土曜日の事業開催の検討及び静岡市広報等への事業掲載による周知を図ります。

(2) 重度障がい者や、強度行動障がい者の受入れ

ア なぎさホーム(重度肢体 重度重複) ※再掲

現状・展望

- ・大半の利用者が常時、車椅子を使用。
- ・医療的ケア(吸引や呼吸器等)を必要とする人の受入れ状況;平成29年度末時点で3人が利用

課題

- ・看護師等の専門職員の確保。

今後の取組

- ・医療的ケアを必要とする人が安心して利用できるよう医療機関との連携や看護師等の専門職員を恒久的に配置します。

イ うなばら学園(重度知的) ※再掲

現状・展望

- ・他事業所での受け入れが困難な重度知的障害者の積極的受入れ。
平成29年度末時点で38人が利用

- ・強度行動障害支援者養成研修受講職員数

内容	H27	H28	H29
基礎編	1人	0人	1人
実践編	0人	0人	2人

課題

- ・パニック時の支援方法及び安全確保等対応方法の統一。
- ・障害特性に応じた班編成を行うための活動室の不足。

今後の取組

- ・強度行動障害支援者を計画的に配置し、重度知的障害者の支援の充実を図ります。

(3) 手話通訳者養成講座等の開催

現状・展望

- ・静岡市の委託事業として実施。

講習会名		H27	H28	H29
手話講習会	昼間	21人	33人	17人
	夜間	38人	40人	43人
要約筆記講習会		8人	15人	9人
点字講習会		13人	13人	11人

課題

- ・夜間対応の事業に要する人件費の増。

今後の取組

- ・人件費を含めた委託料の増額及び養成講座の在り方の検討等、静岡市と協議します。
- ・平成 30 年度より移動支援事業従事者養成研修の取組みを開始。

3 地域における社会貢献活動

(1) 地域との協働

ア 奉仕活動、防災訓練

現状・展望

- ・地区社協主催のレクリエーション大会や敬老の集いの活動への協力。
- ・忠霊塔公園の定期清掃実施。

課題

- ・地区社協との事業連携。
- ・災害時の際の、地域住民の受入れ。
- ・今後の新たな地域貢献事業の実施。

今後の取組

- ・地区の福祉事業や行事に対して積極的に協力し、地域に愛され、地域に親しまれる事業を展開すると共に、地域公園の環境整備個所の増(1か所→3か所)や災害時における住民の受入れの対応等、地区自治会、駒越地区社会福祉協議会と定期的に協議します。
- ・子ども食堂を運営し、子どもの居場所づくりを目指します。

(2) 地域への貢献

ア 教室開催、施設開放、人材派遣

現状・展望

- ・小学生対象福祉学級の開催及びS型デイサービスへの職員派遣。

○教室等実施状況

事業名	H27	H28	H29
福祉学級	27 人	25 人	16 人
S型デイ	3回・55 人	3回・50 人	3回・60 人

- ・運動広場等の貸出。

区分	H27	H28	H29
運動広場	10 件・6,632 人	7件・8,115 人	7件・7,555 人
多目的ホール	5件・440 人	4件・460 人	4件・290 人

課題

- ・学区内の小・中学校及び地区社協との連携。

今後の取組

- ・地域における課題について地域諸団体等との定期的な協議及び事業協力し、地域に貢献いたします。

(3) 地域との交流

ア 施設との交流、催事への参加

現状・展望

- ・もちつき大会における地域住民との交流。
- ・地元地域のまつり(年2回)への参加。

課題

- ・施設行事に対して地域住民の参加者が少ない。

今後の取組

- ・施設利用者との積極的な交流を図るための新たな事業を展開し、障がいへの理解と協力を働き掛けていきます。

4 地域における支援力の向上

(1) 事業者間ネットワークの構築

現状・展望

- ・他法人との情報の共有が少ない。
- ・個別事業所ごとに独立。

課題

- ・困難ケースへの紹介後のフォロー。
- ・関係機関とのネットワーク化

今後の取組

- ・関係機関(保健センター、こども園等)及び静岡市社会福祉協議会と連携を強化し、情報の共有化を図ります。

(2) 複数事業者による連携した支援の実施

現状・展望

- ・静岡市社会福祉協議会(清水区地域地域福祉推進センター)との協働による宿泊型防災訓練の実施。

課題

- ・年1回の実施のため、大規模災害時に対応できるか。

今後の取組

- ・静岡市社会福祉協議会(清水区地域地域福祉推進センター)との連携をさらに図り、実施回数が増や地域防災体制の強化及び情報の共有化を図ります。

(3) 蓄積した専門的技術の提供

現状・展望

- ・駒越こども園研修会、S型デイサービス事業及び障がい者スポーツ講師として職員が参加。

事業名	H27	H28	H29
駒越こども園研修会	7回・7人	7回・7人	7回・7人

S型デイサービス	3回・6人	3回・6人	3回・6人
講演会	1回・4人	1回・3人	1回・2人

課題

- ・一部の職員しか関わっていない。

今後の取組

- ・他の児童施設や関係機関にも事業団職員の専門性を発揮する機会等、積極的に働きかけます。

(4) 見学者や実習生の積極的受入れ

現状・展望

- ・福祉を学ぶ実践の場として、可能な限り受入れ。

○見学者等受入状況

区分	H27	H28	H29
一般見学者	102 人	233 人	116 人
大学生等実習	65 人	158 人	179 人
支援学校生徒	58 人	64 人	54 人

課題

- ・新規の施設利用や職員採用者に結びつかないことが多い。

今後の取組

- ・施設利用に結びつけるよう、特別支援学校等との連携の強化を図ります。
- ・介護福祉士や社会福祉士の実習施設としての指定を受けるため、人材の育成等、整備します。

第6 経営面における現状・課題・取組

1 経営状況

(1) 指定管理料における施設

ア みなとふれあいセンター（身体障害者福祉センター）

イ うみのこセンター（母子療育訓練センター）

現状・展望

- ・幅広い公的事業を実施。

施設名		H27	H28	H29
みなとふれあいセンター	利用者数 (実人員)	88 人	88 人	84 人
	指定管理料	38,649 千円	39,923 千円	39,923 千円
うみのこセンター	利用者数 (実人員)	152 人	171 人	185 人
	指定管理料	40,462 千円	41,676 千円	41,676 千円

課題

- ・指定管理料の据え置き。
- ・年度途中の利用者数に対する柔軟な対応。

今後の取組

- ・質の高いサービスの提供に向け、指定管理料の算定及び利用料の見直し等、静岡市と協議し、経営の安定化を図ります。

(2) 自主運営における施設

- ア なぎさホーム(重度肢体 重度重複)
- イ ひびきワーク(身体)
- ウ うなばら学園(重度知的)
- エ うしおワーク(知的)

現状・展望

- ・定員割れをしている施設や、複数の施設を利用する人の増加に伴う利用率の減。

施設名		H27	H28	H29	
なぎさホーム	1日平均利用者数	12人	12人	11.8人	
	利用料金収入	51,861千円	51,921千円	51,079千円	
ひびきワーク	1日平均利用者数	13.5人	13.1人	11.6人	
	利用料金収入	30,773千円	31,137千円	28,850千円	
うなばら学園	1日平均利用者数	50.1人	48.3人	47.9人	
	利用料金収入	118,690千円	122,070千円	125,414千円	
うしおワーク	就B	1日平均利用者数	15.9人	16.3人	15.2人
		利用料金収入	29,740千円	28,776千円	27,064千円
	生活	1日平均利用者数	28.6人	30.3人	29.3人
		利用料金収入	52,924千円	58,099千円	57,719千円

課題

- ・利用率及び在籍者数の減により、安定的な経営が望めない。

今後の取組

- ・サービスの質の向上及び確保のため、法定基準以上の職員を配置する他、専門職加算による収入の安定及び利用者ニーズをリサーチし、質の高い日中支援の提供を検討します。

(3) 相談支援事業

- ア 相談支援事業(委託料)
- イ 特定相談支援事業・障害児相談支援事業(自主運営)

現状・展望

- ・赤字のため法人内の他施設からの繰入による運営。

区分	H27	H28	H29
----	-----	-----	-----

相談支援事業	委託料	11,799,000 円	11,799,000 円	11,850,000 円
特定相談支援事業	計画相談支援給付費収入	5,661,923 円	5,800,751 円	6,060,436 円
障害児相談支援事業	障害児相談支援給付費収入	2,035,679 円	1,813,353 円	2,000,096 円

課題

- ・事業による収入と人件費のバランスが悪い。
- ・特定相談の需要は多いが、経営面から相談支援専門員の確保に難がある。

今後の取組

- ・福祉サービス等利用計画の依頼から作成までの業務を見直す等の効率化及び特定事業所加算のための体制の整備を図ります。

(4) 人件費

現状・展望

- ・介護報酬の減に対し、定期昇給等による人件費の増。

○人件費支出の推移

	H27	H28	H29	比較 (29年度-27年度)
人件費	318,676,843 円	318,052,827 円	321,004,199 円	
対前年比		△624,016 円	2,951,372 円	2,327,356 円
		99.8%	100.9%	100.7%

課題

- ・収入と支出(人件費)のバランスが悪い。

今後の取組

- ・定年退職者の再雇用や高齢者等の活用を積極的に行い、経営の効率化を図ります。

(5) 決算状況

	H27	H28	H29
収入	411,715,949 円	416,643,093 円	415,668,681 円
支出	393,246,323 円	400,333,508 円	410,378,873 円
収支差額	18,469,626 円	16,309,585 円	5,289,808 円

第7 人材の育成

1 多種多様な職種と資格

現状・展望

- ・社会福祉士や介護福祉士、保育士等、様々な専門職の配置。

○資格取得状況(平成30年4月1日現在)

No.	種類	人数	割合
1	社会福祉士	8人	9.4%
2	精神保健福祉士	1人	1.1%
3	介護福祉士	18人	21.1%
4	介護福祉専門員(ケアマネ)	3人	3.5%
5	保育士	10人	11.7%
6	社会福祉主事	35人	41.1%
7	保健師	1人	1.1%
8	看護師	5人	5.8%
9	障がい者スポーツ指導員	6人	7.0%

※重複取得者あり

課題

- ・人材確保のため、処遇改善。

今後の取組

- ・専門職の増員を図るため、資格取得の奨励や資格手当の増額等、処遇改善に向けた取り組みを検討します。

2 長期的な視点での人材育成

事業団職員の平均勤続年数は約17.0年で、長い勤務年数により様々な障害児・者の支援に対応するための豊富な知識とノウハウを身につけており、その経験から多様で長期的な視点に立った支援が可能となっています。

3 職員の資質向上

現状・展望

- ・新任職員に対して、OJTやメンター制度によるサポート体制の強化。
- ・研修計画に基づき、階層別研修、職種別研修及び外部講師による職場内研修等の実施。

○職員研修(職種別)実績

施設名		H27	H28	H29
法人内部 研修	件数	11件	11件	15件
	延人数	294人	285人	355人
本部 事務局	件数	22件	27件	22件
	延人数	59人	64人	53人

みなとふれあいセンター	件数	5件	2件	6件
	延人数	6人	2人	11人
ひびきワーク	件数	8件	5件	3件
	延人数	12人	7人	3人
うみのこセンター	件数	4件	6件	11件
	延人数	4人	14人	41人
うしおワーク	件数	18件	13件	17件
	延人数	33人	23人	37人
うなばら学園	件数	20件	24件	24件
	延人数	36人	203人	51人
なぎさホーム	件数	12件	9件	7件
	延人数	18人	13人	10人
わだつみ	件数	6件	7件	4件
	延人数	12人	13人	12人

課題

- ・研修後の事業所内での活用が不足している。

今後の取組

- ・研修活用マニュアルの作成と実践に即した取り組みを検討し、資質の向上に努めます。

第8 内部統制

現状・展望

- ・法に基づく評議員会、理事会の開催。
- ・職員危機管理行動規範を全職員に配布し、職員としての心構え等の周知徹底。
- ・公認会計士による会計帳簿等の定期監査。
- ・監事による決算及び期中監査の実施。
- ・社会保険労務士による法令、労務管理等の業務確認。

課題

- ・理事、監事、評議員と職員との関係づくり。
- ・理事、監事、評議員の相互牽制機能の構築。

今後の取組

- ・理事、監事、評議員に対して、定期的な施設内視察等を実施する他、業務の適性を図る内部監督役の取り決めや内部統制システムの構築を図ります。

第9 経営の効率化

1 人材の確保、職員採用

現状・展望

- ・職員配置基準や業務内容による適正配置。
- ・新卒者向けのリクルートパンフレットの作成及び配布。

- ・マイナビ（求人媒体）や静岡県人材センターの就職セミナー活用。
- ・就職希望者等に対する施設見学の随時受入れ。

○採用実績

年度別	H27	H28	H29
応募人数	3人	4人	7人
採用人数	2人	3人	4人

課題

- ・収支状況や業務内容に適したバランスの良い配置。
- ・求人に対して、応募者が少ない。

今後の取組

- ・施設業務や特色に応じた適正な職員配置、及びワークライフバランスに配慮した働きやすい環境作りの構築を図るとともに、福祉関係大学等の有資格者の採用を積極的に進めます。

2 経費節減等への取組み

現状・展望

- ・建物内の誘導灯及び利用者居室、本館ロビー照明のLED化の実施。
- ・事務用品の一括購入。
- ・ノー残業デー実施回数増による時間外勤務手当及び光熱水費の削減。

課題

- ・国の働き方改革に対して、社会福祉法の改正による業務量増。

今後の取組

- ・照明のLED化や保守管理の適正化、各種団体年会費の見直し、職員の職場環境改善等、さらなる経費削減に取り組みます。

第10 建物及び設備の老朽化に伴う建替え等

(1) 建物及び設備

現状・展望

- ・建設から36年が経過し施設の老朽化等、暗い印象。

課題

- ・利用者の障害特性に適した活動場所の確保。
- ・施設の老朽化対策
- ・自主財源による限られた修繕対応。

今後の取組

- ・将来の建替えに備えた新施設整備計画の策定等、静岡市と協議します。

第11 計画期間中の目標

1 事業面における目標

(1) 多分野に渡る障害福祉サービスの確実な実施

取組	定員	現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1 ひびきワーク契約者数	20人	17人	17人	18人	19人	20人
2 うしお就労B契約者数	20人	19人	19人	19人	19人	19人
	うしお生活介護契約者数	30人	35人	33人	34人	34人
3 うなばら学園契約者数	60人	58人	60人	61人	61人	61人
4 なぎさホーム契約者数	20人	16人	18人	19人	19人	19人

(2) 一般の民間事業所では対応が困難な事業や役割の実施

取組	現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1 うみのごセンター利用登録者数	185人	190人	190人	190人	190人
2 医療的ケアを必要とする方の受入れ(なぎさホーム)	3人	4人	5人	5人	5人
3 他事業所で受入れ困難な重度者の受入れ(うなばら学園)	38人	40人	42人	43人	44人
4 みなとふれあいセンターのみの事業参加者	48人	49人	50人	51人	52人

(3) 地域における公益活動

取組	現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1 公園環境整備活動	2回	20回	24回	28回	32回
2 宿泊型防災訓練	1回	1回	1回	2回	2回
3 地域との交流事業	5回	5回	5回	5回	5回
4 子ども食堂事業	0回	12回	16回	20回	24回

(4) 地域における支援力の向上

取組	現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1 一般見学者受入れ	116人	120人	125人	130人	135人
2 大学生等実習者受入れ	179人	185人	190人	195人	200人
3 支援学校実習生受入れ	54人	60人	65人	70人	75人
4 講師派遣等	11回	12回	13回	14回	15回

2 評価指標における目標設定

(1) 施設利用者の満足度

利用者満足度調査における利用者満足度を90%以上とするために、以下の施策を実施する。

<p>みなとふれあいセンター</p>	<p>障害のある方の社会参加の場として、創作的活動やレクリエーション、軽スポーツを気軽に安心して楽しむことができるよう各種教室を開催し、利用者本位のサービスを提供する。また、土曜日や夜間に単発教室を試行的に開催し、利用者の需要を確認しながら活動の幅を広げていく。</p>
<p>ひびきワーク</p>	<p>自立した日常生活、社会生活を営むため、創作活動や生産活動を通じて働く喜びを知り、社会の一員としての自覚を持ち豊かな生活をおくれるようにするための個別支援計画を策定する。その中で、土曜活動における外出等の機会を増やすなど、よりサービスの向上を目指す。また、保護者の介護負担軽減も含め、拠点送迎が困難になりつつある送迎サービスにおいて、個別送迎を試行的に実施していく。</p>
<p>うみのこセンター</p>	<p>発達に遅れのある児等の早期発見、早期療育を推進するために、市保健センター、こども園、保育園、幼稚園、幼児言語教室、学校、医療福祉等の地域の関係機関とのネットワークの中で連携をとりながら共通理解のもと、子どもの状況に合わせ、地域に密着した療育の支援体制を構築していく。</p> <p>また、育児や進路に関する親の悩みなどの相談を随時受け、親を支えていく体制作りをめぐる。併せて、将来にむけて子どもと歩む基礎作りとなるよう、おしゃべりランチ、シンデレラクラブ（卒園児親の会）等を通してサポートしていく。</p>
<p>うしおワーク</p>	<p>利用者本位のサービスを実現するために、利用者や家族の意向を尊重し、サービスを提供するうえでの留意点を盛り込んだ支援計画を利用者個々に策定する。</p> <p>生活面の支援においては、利用者の主体性や自己決定を尊重し、生活の質（QOL）の向上を目指し、地域の中でその人らしく自立した生活ができるよう支援する。その中で、土曜活動における外出等の機会を増やすなど、よりサービスの向上を目指す。</p> <p>また、保護者会の要望により宿泊活動を実施し、社会生活経験の拡充及び保護者の負担軽減を図る。</p>
<p>うなばら学園</p>	<p>利用者の自立支援に向けて、利用者及び保護者のニーズを把握し、日中活動における生活支援、作業支援のプログラムを作成し、利用者本位のサービスの実現を目指す。</p> <p>また、利用者のニーズにきめ細やかな支援を目指し、利用者、保護者のアンケートをもとに少人数の個別活動支援（プール・ハイキング・ボウリング・ショッピング等）等を実施するほか、保護者会の要望により宿泊活動を実施し、社会生活経験の拡充及び保護者の負担軽減を図る。</p>

なぎさホーム	<p>利用者本位のサービスを実現するために、利用者や家族の意向を尊重し、サービス提供する上での留意点を盛り込んだ個別支援計画を策定する。</p> <p>生活面の支援については、利用者の主体性や自己決定を尊重し、生活の質（QOL）の向上を目指す。</p> <p>また、看護師を複数名配置し、常時医療的ケアの利用者にも対応できる環境を整える。</p> <p>その他、日帰りライフサポート事業（午後9時まで）を実施し、家庭介護の負担軽減を図る。</p>
--------	---

(2) 虐待、差別の防止

職員に対し、マニュアルの周知徹底を図り、虐待防止委員会の開催（年4回）や、虐待防止に向けた研修会（全職員参加）、セルフチェック（年4回）を実施し、誠実な施設運営と支援の質の向上に努める。

(3) 施設事故の防止

(a) 建築物及び各種設備の保守管理、点検

建築物について、利用者の安全かつ円滑な利用に供するとともに、設備の日常点検、法定点検、定期点検等を行い、所期の性能を維持する。

(b) 建築設備運転保守管理

施設が正常に機能を発揮し、円滑かつ最良の状態で運営できるよう建築、電気設備、空調設備、給排水衛生設備、防災設備等、必要な業務を実施する。

(c) 環境維持管理等

施設的环境を維持し、美観の維持に心掛け、公共施設として快適な空間を保つために必要な施設等の維持管理業務を実施する。そのために、月に1回職員による環境整備を実施する。

(d) 安全管理

安全管理上、設備の必要な保守点検を定期的に行うとともに、事業所内における事故防止に万全を期するため、利用者が安全かつ快適に活動ができる環境を整備する。

① 業務マニュアルの徹底化

② 日常起こりうる「ヒヤリ・ハット」事例の収集を事項防止対策委員会で実施し、事故防止対策に活用する。

③ 救急時対応の訓練を職場内研修として定期的実施する。

④ 事故発生時は、緊急時対応等のリスクマニュアルに基づき、迅速かつ適切な対応を行う。

(4) 強度行動障害等の専門的研修の受講職員数

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	強度行動障害研修	3人	3人	3人	4人	4人
2	個別支援計画策定研修	2人	2人	2人	2人	2人
3	自閉症支援研修	4人	4人	4人	5人	5人
4	看護従事者養成研修	1人	1人	1人	1人	1人

(5) 養成講座等への参加者数

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	手話奉仕員養成講座	1,463人	1,580人	1,600人	1,600人	1,600人
2	要約筆記者養成講座	105人	48人	110人	110人	110人
3	移動支援従事者養成研修	0人	90人	90人	90人	90人

※要約筆記者養成講座について

平成30年度から平成31年度の2年間でパソコンコース受講となるが、平成30年度のパソコンコース受講者が0人であったため平成31年度は参加者が減で表示される。

平成32年度以降は、手書きコース5人、パソコンコース5人の合計10人での受講を見込んでいる。

3 経営面における目標

(1) 指定管理料における施設

ア みなとふれあいセンター

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	教室利用登録者数の増	84人	86人	88人	90人	92人
2	教室開催回数の維持	194回	195回	195回	195回	195回
3	延べ利用者数の増	2,325人	2,437人	2,535人	2,632人	2,730人
4	平均利用者数の増	11.9人	12.5人	13人	13.5人	14人

イ うみのこセンター

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	利用登録児数の維持	185人	190人	190人	190人	190人
2	延べ利用児数の維持	5,280人	5,300人	5,300人	5,300人	5,300人
3	平均利用児数の維持	22.2人	22.5人	22.5人	22.5人	22.5人

(2) 自主運営における施設

ア ひびきワーク

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	契約者数	17人	17人	18人	19人	20人
2	延べ利用者数	3,126人	3,238人	3,419人	3,600人	3,781人
3	介護給付費収入	28,850千円	28,758千円	29,976千円	30,506千円	31,724千円

イ うしおワーク

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34	
1	契約者数	就B	19人	19人	19人	20人	20人
		生活	35人	33人	34人	34人	35人
2	延べ利用者数	就B	4,134人	4,134人	4,134人	4,350人	4,350人
		生活	7,916人	7,705人	7,919人	7,919人	8,133人
3	介護給付費収入	就B	27,064千円	25,776千円	25,776千円	27,051千円	27,051千円
		生活	57,719千円	53,374千円	54,729千円	54,729千円	56,083千円

ウ うなばら学園

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	契約者数	58人	59人	61人	61人	61人
2	延べ利用者数	12,887人	12,935人	13,431人	13,431人	13,431人
3	介護給付費収入	125,414千円	126,191千円	131,236千円	131,531千円	131,531千円

エ なぎさホーム

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	契約者数	16人	18人	19人	19人	19人
2	延べ利用者数	3,147人	3,495人	3,689人	3,689人	3,689人
3	介護給付費収入	51,079千円	56,466千円	59,706千円	59,706千円	59,706千円

オ 特定相談及び障害児相談支援事業（障害者相談支援センターわだつみ）

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	契約者数の増	245人	244人	248人	253人	258人
2	収入実績の増	8,044千円	11,441千円	11,559千円	11,708千円	11,856千円
3	新規契約者数の増	12人	0人	4人	5人	5人
4	担当一人当たりの月平均 計画等作成数の増	10人	16.6人	16.8人	17人	17.2人

(3) 静岡市委託料における事業（障害者等相談支援事業；障害者相談支援センターわだつみ）

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	委託料	11,850千円	11,680千円	11,680千円	11,680千円	11,680千円
2	相談件数	2,319件	2,430件	2,430件	2,430件	2,430件

(4) 人材育成

取組		現状(H29)	H31	H32	H33	H34
1	国家資格取得者数	43人	44人	45人	46人	47人
2	強度行動障害支援者養成研修受講者数	2人	4人	5人	6人	7人

(5) 収支決算見込み

(a)法人合算

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	363,152千円	365,874千円	376,850千円	379,099千円	381,819千円
	繰入金収入	42,309千円	47,009千円	46,223千円	47,262千円	48,262千円
	その他収入	52,511千円	52,792千円	52,792千円	52,792千円	52,792千円
	収入合計	457,972千円	465,675千円	475,865千円	479,153千円	482,873千円
支 出	人件費支出	321,002千円	343,339千円	332,706千円	328,598千円	333,659千円
	事業費支出	31,954千円	34,774千円	34,774千円	34,774千円	34,774千円
	事務費支出	44,097千円	31,021千円	31,021千円	31,021千円	31,021千円
	繰入金支出	42,309千円	47,009千円	46,223千円	47,262千円	48,262千円
	その他支出	13,321千円	11,386千円	11,386千円	11,386千円	11,386千円
	支出合計	452,683千円	467,529千円	456,110千円	453,041千円	459,102千円
前期末支払資金残高(取崩し)		0円	1,854千円	0円	0円	0円
当期資金収支差額		5,289千円	0千円	19,755千円	26,112千円	23,771千円

(b)みなとふれあいセンター

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	43,570 千円	44,227 千円	44,227 千円	44,227 千円	44,227 千円
	繰入金収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	264 千円	289 千円	289 千円	289 千円	289 千円
	収入合計	43,834 千円	44,516 千円	44,516 千円	44,516 千円	44,516 千円
支 出	人件費支出	20,973 千円	18,010 千円	18,541 千円	18,989 千円	19,411 千円
	事業費支出	3,537 千円	3,174 千円	3,174 千円	3,174 千円	3,174 千円
	事務費支出	12,534 千円	12,244 千円	12,244 千円	12,244 千円	12,244 千円
	繰入金支出	4,658 千円	9,982 千円	9,451 千円	9,003 千円	8,581 千円
	その他支出	1,744 千円	1,106 千円	1,106 千円	1,106 千円	1,106 千円
	支出合計	43,446 千円	44,516 千円	44,516 千円	44,516 千円	44,516 千円
当期資金収支差額		388 千円	0 円	0 円	0 円	0 円

(c)ひびきワーク

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	29,576 千円	29,868 千円	31,086 千円	31,616 千円	32,834 千円
	繰入金収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	960 千円	973 千円	973 千円	973 千円	973 千円
	収入合計	30,536 千円	30,841 千円	32,059 千円	32,589 千円	33,807 千円
支 出	人件費支出	16,690 千円	23,550 千円	23,925 千円	19,345 千円	19,662 千円
	事業費支出	4,339 千円	4,615 千円	4,615 千円	4,615 千円	4,615 千円
	事務費支出	1,724 千円	636 千円	636 千円	636 千円	636 千円
	繰入金支出	6,406 千円	1,812 千円	0 円	0 円	0 円
	その他支出	28 千円	228 千円	228 千円	228 千円	228 千円
	支出合計	29,187 千円	30,841 千円	29,404 千円	24,824 千円	25,141 千円
当期資金収支差額		1,349 千円	0 円	2,655 千円	7,765 千円	8,666 千円

(d)うみのこセンター

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	繰入金収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	41,880 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円
	収入合計	41,880 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円
支 出	人件費支出	35,716 千円	35,728 千円	31,143 千円	31,543 千円	31,982 千円
	事業費支出	1,835 千円	1,969 千円	1,969 千円	1,969 千円	1,969 千円
	事務費支出	906 千円	686 千円	686 千円	686 千円	686 千円
	繰入金支出	3,018 千円	3,160 千円	7,745 千円	7,345 千円	6,906 千円
	その他支出	55 千円	256 千円	256 千円	256 千円	256 千円
	支出合計	41,530 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円	41,799 千円
当期資金収支差額		350	0 円	0 円	0 円	0 円

(e)うしおワーク

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	88,871 千円	79,150 千円	80,505 千円	81,780 千円	83,134 千円
	繰入金収入	0 円	2,695 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	7,509 千円	8,474 千円	8,474 千円	8,474 千円	8,474 千円
	収入合計	96,380 千円	90,319 千円	88,979 千円	90,254 千円	91,608 千円
支 出	人件費支出	65,559 千円	66,625 千円	63,220 千円	59,337 千円	60,080 千円
	事業費支出	8,077 千円	8,786 千円	8,786 千円	8,786 千円	8,786 千円
	事務費支出	6,950 千円	3,366 千円	3,366 千円	3,366 千円	3,366 千円
	繰入金支出	6,371 千円	158 千円	0 円	0 円	0 円
	その他支出	7,614 千円	8,689 千円	8,689 千円	8,689 千円	8,689 千円
	支出合計	94,571 千円	87,624 千円	84,061 千円	80,178 千円	80,921 千円
当期資金収支差額		1,809 千円	0 円	4,918 千円	10,076 千円	10,687 千円

(f)うなばら学園

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	129,257 千円	131,430 千円	136,475 千円	136,770 千円	136,770 千円
	繰入金収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	1,066 千円	1,006 千円	1,006 千円	1,006 千円	1,006 千円
	収入合計	130,323 千円	132,436 千円	137,481 千円	137,776 千円	137,776 千円
支 出	人件費支出	80,906 千円	84,636 千円	82,622 千円	84,146 千円	85,447 千円
	事業費支出	10,207 千円	11,518 千円	11,518 千円	11,518 千円	11,518 千円
	事務費支出	10,509 千円	4,524 千円	4,524 千円	4,524 千円	4,524 千円
	繰入金支出	21,856 千円	31,433 千円	29,027 千円	30,914 千円	32,775 千円
	その他支出	1,778 千円	325 千円	325 千円	325 千円	325 千円
	支出合計	125,256 千円	132,436 千円	128,016 千円	131,427 千円	134,589 千円
当期資金収支差額		5,067 千円	0 円	9,465 千円	6,349 千円	3,187 千円

(g)なぎさホーム

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	51,968 千円	58,078 千円	61,318 千円	61,318 千円	61,318 千円
	繰入金収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他収入	123 千円	85 千円	85 千円	85 千円	85 千円
	収入合計	52,091 千円	58,163 千円	61,403 千円	61,403 千円	61,403 千円
支 出	人件費支出	49,296 千円	51,809 千円	52,796 千円	53,591 千円	54,282 千円
	事業費支出	3,446 千円	4,214 千円	4,214 千円	4,214 千円	4,214 千円
	事務費支出	4,119 千円	1,434 千円	1,434 千円	1,434 千円	1,434 千円
	繰入金支出	0 円	464 千円	0 円	0 円	0 円
	その他支出	68 千円	242 千円	242 千円	242 千円	242 千円
	支出合計	56,929 千円	58,163 千円	58,686 千円	59,481 千円	60,172 千円
当期資金収支差額		△4,838 千円	0 円	2,717 千円	1,922 千円	1,231 千円

(h)わだつみ

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	19,910 千円	23,121 千円	23,239 千円	23,388 千円	23,536 千円
	繰入金収入	10,579 千円	9,637 千円	10,523 千円	11,241 千円	11,930 千円
	その他収入	75 千円	16 千円	16 千円	16 千円	16 千円
	収入合計	30,564 千円	32,774 千円	33,778 千円	34,645 千円	35,482 千円
支 出	人件費支出	24,986 千円	29,847 千円	30,851 千円	31,718 千円	32,555 千円
	事業費支出	513 千円	498 千円	498 千円	498 千円	498 千円
	事務費支出	3,041 千円	2,145 千円	2,145 千円	2,145 千円	2,145 千円
	繰入金支出	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他支出	1,670 千円	284 千円	284 千円	284 千円	284 千円
	支出合計	30,210 千円	32,774 千円	33,778 千円	34,645 千円	35,482 千円
当期資金収支差額		354 千円	0 円	0 円	0 円	0 円

(i)本部事務局

		H29(決算)	H31	H32	H33	H34
収 入	障害福祉サービス事業収入	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	繰入金収入	31,730 千円	37,372 千円	35,700 千円	36,021 千円	36,332 千円
	その他収入	634 千円	150 千円	150 千円	150 千円	150 千円
	収入合計	32,364 千円	37,522 千円	35,850 千円	36,171 千円	36,482 千円
支 出	人件費支出	26,876 千円	33,134 千円	29,608 千円	29,929 千円	30,240 千円
	事業費支出	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	事務費支出	4,314 千円	5,986 千円	5,986 千円	5,986 千円	5,986 千円
	繰入金支出	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
	その他支出	364 千円	256 千円	256 千円	256 千円	256 千円
	支出合計	31,554 千円	39,376 千円	35,850 千円	36,171 千円	36,482 千円
前期末支払資金残高(取崩し)		0 円	1,854 千円	0 円	0 円	0 円
当期資金収支差額		810 千円	0 円	0 円	0 円	0 円

※本部事務局は、各施設からの繰入金収入により運営。

※繰入金収入及び繰入金支出について；実務上は内部取引消去となる

静岡市しみず社会福祉事業団施設概要

1 静岡市清水みなとふれあいセンター（身体障害者福祉センターB型）

身体障害者福祉法に基づき、在宅の障害者に対して各種相談に応じるとともに、健康の増進や教養の向上を図るため、創作的活動（陶芸、書道、ペン習字等）や機能訓練事業、軽スポーツ（グラウンドゴルフ、水泳、卓球等）を実施する他、もちつき大会の他、ボランティアの養成、地域交流事業、広報活動（みなとだより・機関紙つばさ・HPの公開）等の実施、障害者スポーツフェスティバル、駒越敬老の集いの運営協力を行います。

2 静岡市清水ひびきワーク（生活介護事業所：定員 20 名）

主に、身体障害者を対象に、利用者の生活を支援するために、個別支援計画を作成し、本人が望む社会自立を図るとともに、生きがいつくりなど日々の生活が豊かになるよう支援します。

3 静岡市清水うみのこセンター（母子療育訓練センター）※定員なし

発達の遅れやつまづきが気になる就学前の子どもに対して、さまざまな活動を通して成長、発達を促すための支援を行います。また、家族に対しては、子どもを正しく捉えることで、将来を見据えた子育てができるよう地域の関係機関と連携しながら支援を行います。

4 静岡市清水うしおワーク（多機能型事業所：定員 50 名）

《生活介護事業・定員 30 名》

日中活動の場を提供し、利用者の社会自立を図るとともに、生きがいつくりなど日々の生活が豊かになるよう支援します。また、一人ひとりの持っている個性を大切に、生産活動や創作的活動を行います。

《就労継続支援B型事業・定員 20 名》

一般企業で働くことが難しい方や離職された方、仕事をすることで社会自立を目指したい方へ「働く場」を提供します。また、「働くこと」に対して必要な知識や能力の向上のため、まずは自分にできることから始め、徐々にステップアップできるよう支援します。

5 静岡市清水うなばら学園（生活介護事業所：定員 60 名）

集団生活の中で、それぞれの障がいに合わせて個別支援を行い、利用者が安定した社会生活を送ることができるように、創作的活動や季節の行事を取り入れた支援を行います。

6 静岡市清水なぎさホーム（生活介護事業所：定員 20 名）

安定した社会生活を送れるよう、個々に合わせた支援を行うとともに、生きがいのある豊かな生活の場と家庭介護の軽減を図ります。

7 障害者相談支援センターわだつみ（相談支援事業）

障がいのある方の相談に応じ、地域の関係機関と連携を図り、あらゆる社会資源を活用しながら、住み慣れた地域で生き生きと生活ができるよう支援します。

社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団



〒424-0905 静岡市清水区駒越西2-10-10